



電話機テンプレート

Cisco CallManager Bulk Administration (BAT) は、多数の電話機を一括して追加、更新、または削除する高速で効率的な方法を管理者に提供します。Cisco CallManager Administration を通じて個々に更新を行うわけではありません。BAT を使用して次のタイプの電話機を処理することができます。

- Cisco IP Phone (全モデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

次のトピックでは、BAT を使用して電話機テンプレートと他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [BAT 電話機 テンプレートの使用方法 \(P.3-3\)](#)

電話機の追加

BAT を使用して、電話機と他の IP テレフォニー デバイスを Cisco CallManager データベースに追加する場合は、各電話機に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加することができます。CTI ポートと H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機用の CSV データ ファイルを作成する方法としては、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する (経験豊富なユーザー向け)。

電話機と IP テレフォニー デバイスを一括して追加するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 Bulk Administration > Phones > Phone Template の順に選択します。

Find and List Phone Templates ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、P.3-3 の「BAT 電話機 テンプレートの使用方法」を参照してください。

ステップ 2 BAT スプレッドシートを使用して、電話機テンプレートを挿入するための CSV データ ファイルを作成する手順は、P.3-32 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。

Text Editor to Create the CSV Data File

a. Bulk Administration > Phones > Phone File Format > Create File Format の順に選択します。

Find and List Phone File Formats ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、P.4-3 の「電話機のファイル形式の検索」を参照してください。

b. テキスト エディタを使用して、使用するファイル形式に従った電話機用の CSV データ ファイルを作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、P.A-2 の「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」を参照してください。

c. Bulk Administration > Phones > Phone File Format > Add File Format の順に選択します。

Add File to Format ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、P.4-7 の「ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け」を参照してください。

ステップ 3 Bulk Administration > Phones > Validate Phones の順に選択します。

Validate Phones ウィンドウが表示されます。電話機レコードの確認の詳細については、第 5 章「電話機レコードの確認」を参照してください。

ステップ 4 Bulk Administration > Phones > Insert Phones の順に選択します。

Insert Phones ウィンドウが表示されます。Cisco CallManager データベースへの電話機レコードの挿入の詳細については、P.6-2 の「Cisco CallManager への電話機の挿入」を参照してください。

その他の項目

詳細については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機 テンプレートの使用方法

BAT 電話機テンプレートを使用して、一連の新しい電話機を追加するために共通の電話機アトリビュートを定義します。テンプレートの作成前に、電話機設定値、たとえば、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレートが、Cisco CallManager Administration に設定されていることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT 電話機テンプレートに関する作業を行います。

- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(P.3-3\)](#)
- [新しい BAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-10\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話機テンプレートが存在する場合があるので、Cisco CallManager では、固有の検索基準に基づいて特定の電話機テンプレートを見つけることができます。テンプレートを検索する手順は、次のとおりです。



(注)

ブラウザセッションの作業中、検索 / 一覧表示の検索プリファレンスはクライアント マシンのクッキーに格納されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合、検索を変更するまで Cisco CallManager 検索プリファレンスが維持されます。

手順

ステップ 1 Bulk Administration > Phones > Phone Template の順に選択します。

Find and List Phone Templates ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、テンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の Find Phone Templates where ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの検索基準を選択します。

- Device Name
- Description
- Directory Number
- Calling Search Space
- Device Pool
- Device Type
- Call Pickup Group
- LSC Status
- Authentication String

- Device Protocol
- Security Profile

2 番目の Find Phone Template where ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- is exactly
- ends with
- is empty
- is not empty

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検索されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索基準に一致するデバイス名をクリックします。

選択した電話機テンプレートがウィンドウに表示されます。

その他の情報

詳細については、[P.3-47](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

新しい BAT 電話機テンプレートの作成

電話機テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。電話機テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。電話機テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **Bulk Administration > Phones > Phone Template** の順に選択します。

Find and List Phone Templates ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 **Add New** をクリックします。Add a New Phone Template ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Phone Type ドロップダウン リスト ボックスで、テンプレートを作成する対象の電話機のモデルを選択します。**Next** をクリックします。

- ステップ 4** Select the Device Protocol ドロップダウン リスト ボックスで、デバイス プロトコルを選択します。**Next** をクリックします。
- Phone Template Configuration ウィンドウに、選択したデバイス タイプに対応するフィールドとデフォルトのエントリが表示されます。
- ステップ 5** Phone Template Name フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7960。
- ステップ 6** Device Information 領域に、このバッチに共通する電話機設定値を入力します。フィールドの説明については、表 3-1 を参照してください。電話機モデルとデバイス タイプによっては、表に記載されているアトリビュートすべてを備えていないものがあります。
- ステップ 7** この BAT 電話機テンプレートの設定値をすべて入力した後、**Save** をクリックします。
- ステップ 8** トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、回線アトリビュートを追加することができます。

その他の情報

詳細については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタン テンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスターテンプレートを使用して、1 回線またはマスターテンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、P.1-5 の「マスター電話機テンプレート」を参照してください。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、回線を追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** Phone Template Configuration ウィンドウの Associated Information 領域で、**Line [1] Add a new DN** をクリックします。

Line Template Configuration ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタン テンプレートによって決まります。

- ステップ 3** 表 3-2 で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。すべてのフィールドは、オプションです。

ステップ 4 **Save** をクリックします。

BAT によって、回線が電話機テンプレート設定に追加されます。

ステップ 5 その他の回線の設定値を追加するには、[ステップ 2](#)～[ステップ 4](#) を繰り返します。



(注)

Line Template Configuration ウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Back to Find/List** を選択すると、Find and List Line Template ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索基準を入力して、**Find** をクリックします。新しい回線テンプレートを追加するには、Find and List Line Template ウィンドウで、**Add New** をクリックします。



(注)

一部の Cisco IP Phone モデルでは、Cisco IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。詳細については、[P.3-6](#) の「[BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新](#)」および [P.3-7](#) の「[BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.3-47](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

各種の Cisco IP Phone サービスが、この機能を備える Cisco IP Phone モデルに登録できます。



(注)

固有のサービス パラメータを持つ IP サービスではなく共通のサービス パラメータを持つ IP サービスに、ユーザまたは電話機をまとめて登録できます。これは、電話テンプレートによって登録されているサービスでのみ有効です。固有のサービス パラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用して値を指定できます。

手順

ステップ 1 [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、IP サービスを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 Phone Template Configuration ウィンドウの Associated Information 領域で、**Add a new SURL** をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、利用可能な Cisco IP Phone サービスを登録できます。

ステップ 3 Select a Service ドロップダウン リスト ボックスで、すべての電話機に登録するサービスを選択します。Service Description ボックスに、選択したサービスの詳細が表示されます。

- ステップ 4** **Next** をクリックします。
- ステップ 5** 必要に応じて、**Service Name** フィールドでサービスの名前を変更します。
- ステップ 6** **Subscribe** をクリックして、これらの電話サービスを電話機テンプレートに関連付けます。
- ステップ 7** 他のサービスを追加するには、**ステップ 3** ~ **ステップ 6** を繰り返します。
- ステップ 8** すべてのサービスをテンプレートに追加するには、**Update** をクリックします。
- ステップ 9** ポップアップ ウィンドウを閉じます。
- ステップ 10** 引き続き **P.3-7** の「**BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新**」に進むことで、短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。

その他の情報

詳細については、**P.3-47** の「**関連項目**」を参照してください。

BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新

BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加することも更新することもできます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone に短縮ダイヤルを指定できます。

手順

- ステップ 1** **P.3-3** の「**BAT 電話機テンプレートの検索**」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** Phone Template Configuration ウィンドウの Associated Information 領域で **Add a new SD** をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスで **Add/Update Speed Dials** を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco IP Phone および拡張モジュールに対して、短縮ダイヤル ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタンテンプレートによって、使用可能な短縮ダイヤル ボタンの数が決まります。
- ステップ 3** Speed Dial Settings 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を Number フィールドに入力します。
- ステップ 4** Label フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** ASCII Label フィールドに、短縮ダイヤル番号の ASCII ラベルを入力します。
- ステップ 6** Abbreviated Dial Settings 領域で、**ステップ 3** および **ステップ 5** を繰り返すと、該当する IP Phone モデルに省略短縮ダイヤルを設定することができます。

ステップ7 **Save** をクリックします。

BAT によってテンプレートに短縮ダイヤル設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、[P.3-47](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT テンプレートにおけるビジー ランプ フィールドの追加または更新

BAT テンプレートでビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルの追加と更新ができます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone にビジー ランプ フィールド短縮ダイヤルを指定できます。

手順

ステップ1 [P.3-3](#) の「[BAT 電話機テンプレートの検索](#)」の手順に従って、短縮ダイヤルを追加する電話機テンプレートを検索します。

ステップ2 Phone Template Configuration ウィンドウの Associated Information 領域で **Add a new BLF SD** をクリックするか、同じウィンドウの右上隅にある Related Links ドロップダウン リスト ボックスで **Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials** を選択します。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco IP Phone および拡張モジュールに対して、ビジー ランプ フィールド短縮ダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタンテンプレートによって、使用可能な BLF SD ボタンの数が決まります。

ステップ3 Speed Dial Settings 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を Destination フィールドに入力します。

ステップ4 ドロップダウン リスト ボックスから電話番号を選択します。**Find** をクリックすると、電話番号を検索できます。

ステップ5 Label フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。

ステップ6 ASCII Label フィールドに、BLF SD 番号に対応する ASCII ラベルを入力します。

ステップ7 **Save** をクリックします。

BAT によってテンプレートに BLF SD 設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

その他の項目

詳細については、[P.3-47](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートの変更

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイル テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加または更新できます。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、変更する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** Phone Template Configuration ウィンドウで、テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 (P.3-11) を参照してください。
- ステップ 3** 設定値を変更した後、**Save** をクリックしてテンプレートを更新します。
- ステップ 4** 他のアトリビュートを更新する場合は、次の手順のいずれかを選択します。
 - BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 (P.3-5)
 - BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 (P.3-6)
 - BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 (P.3-7)

その他の情報

詳細については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、電話機テンプレートのプロパティを新しい電話機テンプレートにコピーできます。



(注) 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP Phone Model 7960)。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」の手順に従って、コピーする電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** Phone Template Configuration ウィンドウで、コピーするテンプレートを確認し、**Copy** をクリックします。



(注) Find and List Phone Templates ウィンドウから、電話機テンプレートをコピーすることもできます。コピーする電話機テンプレートに対応した、Copy カラムまたは Copy with Lines カラムのアイコンをクリックします。

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。Find and List Phone Templates ウィンドウで Copy with Lines カラムをクリックした場合、テンプレートに関連付けられているすべての回線も一緒にコピーされます。

- ステップ 3** Phone Template Name フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales_7960。
- ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、[P.3-11 の「BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 5** Save をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の Phone Templates カラムに表示されます。
- ステップ 6** 電話機テンプレートに回線を追加する手順については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。各種のサービスと短縮ダイヤル ボタンを定義することもできます。

その他の項目

詳細については、[P.3-47 の「関連項目」](#)を参照してください。

テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [P.3-3 の「BAT 電話機テンプレートの検索」](#)の手順に従って、削除する電話機テンプレートを検索します。
- ステップ 2** Phone Template Configuration ウィンドウで、削除するテンプレートを確認し、**Delete** をクリックします。



(注) Find and List Phone Templates で電話機テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横のチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックします。

削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。

- ステップ 3** **OK** をクリックして、テンプレートを削除します。Find and List Phone Templates ウィンドウの電話機テンプレート リストのリストから、テンプレート名が消去されます。



注意

特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信し、その電話機テンプレートを削除すると、ジョブも削除されます。

その他の項目

詳細については、P.3-47の「関連項目」を参照してください。

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

表 3-1 では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、P.3-47の「関連項目」を参照してください。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
Device Name	デバイス名を入力します。
Description	作成する電話機テンプレートの説明を入力します。
Device Pool	このグループの電話機またはポートのデバイス プールを選択します。 デバイスに対して、デバイス プールは、共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース）を定義します。
Common Phone Profile	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話機プロファイルのリストから、共通の電話機プロファイルを選択します。
Calling Search Space	このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング（AAR）の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト（MRGL）を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
User Hold Audio Source	<p>このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。</p> <p>ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。</p>
Network Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone またはポートのネットワーク保留オーディオソースを選択します。</p> <p>ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にするととき(たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき)に再生される音楽のオーディオソースを特定します。</p>
Location	<p>このグループの IP Phone またはポートの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを <i>None</i> に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。</p>
User Locale	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを選択します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。</p> <p>Cisco IP Phone ソフトウェアおよび設定の詳細については、電話機モデルに対応する『Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager 5.0』を参照してください。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Device Security Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>Use System Default: 電話機はエンタープライズ パラメータ、Device Security Mode で指定した値を使用します。</p> <p>Non-secure: 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco CallManager が利用できます。</p> <p>Authenticated: Cisco CallManager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>Encrypted: Cisco CallManager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。</p>
Built In Bridge	<p>Built In Bridge ドロップダウン リスト ボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします (<i>On</i>、<i>Off</i>、または <i>Default</i> を選択します)。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
Privacy	<p>プライバシーを必要とする電話機ごとに、Privacy ドロップダウン リスト ボックスで <i>On</i> を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオエンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオコールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。つまり、ビデオ コールがビデオ コールとして接続できない場合に、このデバイスがビデオ コールをオーディオ コールとして即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールでは、オーディオ コールとしての接続確立が再試行されません。この場合、コールはコール制御を行えず、コール制御は Automatic Alternate Routing (AAR) やルート リスト、ハン ト リストによってコールをルーティングします。</p>
Ignore Presentation Indicators (Internal Calls Only)	<p>このチェックボックスをオンにすると、コール表示の制限をコールごとに設定できます。このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager では、内線コールのために受信したすべての表示が無視されます。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Allow Control of Device from CTI	<p>このチェックボックスをオンにすると、CTI で制御可能なすべてのデバイスを CTI から制御できます。</p> <p>このチェックボックスは、CTI Controllable Device Type および Device Protocol に基づいて、オンまたはオフにできます。たとえば、SIP プロトコルを使用する 7960 は CTI ではサポートされていないので、チェックボックスをオフにする必要があります。SCCP プロトコルを使用する 7960 は CTI でサポートされているので、チェックボックスをオンにする必要があります。</p>
Protocol Specific Information (プロトコル固有情報)	
Packet Capture Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケット キャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • None : モードを指定しない場合は None を選択します。 • Real-Time Mode : リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • Batch Processing Mode : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
Packet Capture Duration	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>
Presence Group	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを Presence Group Configuration ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。</p> <p> ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
SIP Dial Rules	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤル ルールを選択します。SIP ダイヤルルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待ったりしなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイヤル プランを提供します。</p> <p>ダイヤルルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、SIP Dial Rules フィールドを <None> のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが Dial ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。</p>
SCCP Phone Security Profile	<p>SCCP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco CallManager で設定が適用できません。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュアなプロファイルを選択します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MTP Preferred Originating Codec	ドロップダウン リスト ボックスから、SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。
SIP Phone Security Profile	SIP 電話機の場合は、デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを選択します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco CallManager で設定が適用できません。 すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュアなプロファイルを選択します。
Rerouting Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。 リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。
Out-of-Dialog Refer Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、アウトオブダイアログ参照コーリング サーチ スペースを選択します。 Cisco CallManager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。
SUBSCRIBE Calling Search Space	プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco CallManager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって決まります。ドロップダウン リスト ボックスから、この目的に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。  ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
SIP Profile	デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定の プロファイルを選択します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープレイズ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Digest User	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択したダイジェスト資格情報が、End User Configuration ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。</p> <p>電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト資格情報が、電話機の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティガイド』を参照してください。</p>
Unattended Port	このチェックボックスをオンにして、デバイス上の不在ポートを示します。
Require DTMF Reception	SIP 電話機および SCCP 電話機の場合、このチェックボックスをオンにすると、この電話機で DTMF を受信する必要があります。
RFC2833 Disabled	SCCP 電話機で、このチェックボックスをオンにすると、RFC2833 サポートのサポートが無効になります。
Phone Button Template and Expansion Module Template Information (電話機ボタンテンプレートおよび拡張モジュールテンプレート情報)	
Phone Button Template	このグループ内の全電話機のボタンテンプレートを選択します。ボタンテンプレートによって、ボタンの識別 (回線、短縮ダイヤル) と電話機上のボタンの位置が決まります。ボタンテンプレートには、拡張モジュールが含まれます。
Softkey Template Information (ソフトキーテンプレート情報)	
Softkey Template	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキーテンプレートを選択します。
Expansion Module Information (拡張モジュール情報)	
Module 1	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
Module 2	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
Firmware Load Information (ファームウェアロード情報)	
Module 1 Load Name	最初の Cisco IP Phone Expansion Module のファームウェアロードを入力します (該当する場合)。デフォルトロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
Module 2 Load Name	2番目の Cisco IP Phone Expansion Module のファームウェアロードを入力します (該当する場合)。デフォルトロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
Cisco IP Phone - External Data Locations (Cisco IP Phone - 外部データの場所)	
Information	Cisco IP Phone の情報ボタンのヘルプテキスト URL を入力します。
Directory	Cisco IP Phone のディレクトリサーバの URL を入力します。
Messages	Cisco IP Phone のボイスメッセージのアクセスパイロット番号を入力します。
Services	Cisco IP Phone のサービスメニューの URL を入力します。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Authentication Server	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。</p>
Proxy Server	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Idle	<p>Idle Timer フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Idle Timer	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、電話機は Idle フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Extension Mobility (Device Profile) Information (エクステンション モビリティ (デバイス プロファイル) 情報)	
Enable Extension Mobility Feature	<p>エクステンション モビリティ機能を使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Log Out Profile	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを選択します。Cisco CallManager Administration でログアウトプロファイルを設定する必要があります。</p> <p>Use Current Device Settings : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>Select a User Device Profile : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがいないとき、デバイスにロードされます。</p>
Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information (認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報) (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
Certificate Operation	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Pending Operation : このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • Install/Upgrade : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • Delete : 証明書のオペレーションを削除します。 • Troubleshoot : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
Authentication String	<p>セキュリティプロファイルの Authentication Mode ドロップダウン リスト ボックスで By Authentication String オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4 ~ 10 桁の数値を手動で入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。</p>
Operation Completes By	<p>このフィールドでは、Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot Certificate Operation オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。</p>
Certificate Operation Status	<p>このフィールドには、認証操作の経過が表示されます。たとえば、<operation type> pending、failed、または successful のように表示されます。operating type には、Install/Upgrade、Delete、または Troubleshoot Certificate Operation オプションがあります。このフィールドに表示される情報は変更できません。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MultiLevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプレション (MLPP) 情報)	
MLPP Indication	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • Off : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。 • On : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p> (注) MLPP Preemption が <i>Forceful</i> で MLPP Indication が <i>Off</i> という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
MLPP Preemption	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプレション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Default : デバイスは MLPP プリエンプレション設定値をデバイス プールから継承します。 • Disabled : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプレション処理しません。 • Forceful : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプレション処理します。 <p> (注) MLPP Preemption が <i>Forceful</i> で MLPP Indication が <i>Off</i> という組み合わせではデバイスを設定しないでください。</p>
MLPP Domain ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
H.323 Device Information (H.323 デバイス情報)	
Signaling Port	このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。 デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオエンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオコールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっており、送信側デバイスが、オーディオコールとして接続していないビデオコールを即座に再試行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオコールはコール制御を行えません。この時点で、コール制御はそのコールをルートリスト内で再ルーティングします。Automatic Alternate Routing (AAR) が設定され使用可能になっている場合、コール制御はルートリスト間のコールも再ルーティングします。</p>
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。これは、Cisco CallManager がデバイスと機能の交換を開始するように指定していることを意味します。このチェックボックスは、Cisco CallManager が、先に遠端の H.245 Terminal Capability Set を受信してから、その H.245 Terminal Capability Set を送信する必要があることを指定します。</p>
H.323 Protocol Specific Information (H.323 プロトコル固有情報)	
SRTP Allowed	<p>このチェックボックスをオンにすると、ネットワークで IPSec を設定してエンドツーエンドのセキュリティを提供する必要があります。そのようにしないと、キーやその他の情報が公開されます。</p>
MTP Preferred Originating Codec	<p>ドロップダウンリストボックスから、SIP コールにメディアターミネーションポイントが必要な場合に使用するコーデックを選択します。</p>
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディアターミネーションポイント) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>メディアターミネーションポイントを使用して機能を実装する場合は Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。メディアターミネーションポイントを使用して機能を実装しない場合は Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディアストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして MTP を要求し、このデバイスがビデオコールのエンドポイントになると、コールはオーディオ専用として機能します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
H.323 Information (H.323 情報)	
Outgoing Caller ID Pattern	電話機への着信コールに対して、発信者 ID に使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。
Calling Party Selection	次のいずれかのオプションを選択して、送信される電話番号を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Originator: コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number: リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number: コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (external): リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (external): コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
Calling Party Presentation	セントラル オフィスが発信者 ID を送信するか、非通知にするかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスが発信者 ID を送信する場合は、Allowed を選択します。 • セントラル オフィスが発信者 ID を送信しない場合は、Restricted を選択します。 • デフォルトでは、発信者 ID をコール ストリーム内で上記のレベルによって非通知にしていない限り、発信者 ID が表示されます。
Display IE Delivery	発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) を通知するには、このチェックボックスをオンにします。
Redirecting Number IE Delivery—Outbound	<p>コールの転送時に最初のリダイレクト番号とコールのリダイレクト理由を知らせるために、Cisco CallManager からの発信 SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージに最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイス メッセージ統合だけの場合は、Redirecting Number IE を使用します。設定したボイス メッセージ システムが Redirecting Number IE をサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE delivery—Inbound	<p>Redirecting Number IE をサポートするボイス メッセージ システムを統合する場合は、Redirecting Number IE を使用します。</p> <p>Cisco CallManager への着信 SETUP メッセージで Redirecting Number IE を受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に着信した SETUP メッセージから Redirecting Number IE を除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Gatekeeper Information (ゲートキーパー情報)	
Gatekeeper Name	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートキーパー制御の H.323 デバイス用のゲートキーパーを選択します。</p> <p> (注) デバイスを選択しない場合、E.164、Technology Prefix、および Zone の各フィールドは無効になります。</p> <p> (注) デバイ스에複数の電話番号が設定されている場合、そのデバイスをゲートキーパー制御の電話機に変更することはできません。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
Technology Prefix	<p>テクノロジー プレフィックスを入力して、gw-type-prefix コマンドの設定時に各 Cisco CallManager システムの IP アドレスを入力する必要がないようにします。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合、このフィールドには次のように 1#* と入力することができます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
Zone	<p>ゲートキーパーで、Cisco CallManager が登録を行う特定のゾーンを入力します。ゾーンには、このゾーンと別のゾーンの間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の電話機用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット、およびアンダースコアだけです。</p>
Gatekeeper Controlled H.323 Client	<p>H.323 クライアント ゲートキーパーを制御対象のゲートキーパーとして設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Secure Shell Information (セキュリティ保護されたシェル情報)	
Secure Shell User	セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。
Secure Shell Password	セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。
Product-Specific Configuration (製品固有の設定)	
デバイスの製造元が定義するモデル固有の設定フィールド	<p>Product Specific Configuration では、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが定義されています。これらのフィールドは動的に設定されるので、事前の通知なく変更されることがあります。</p> <p>フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、Product Specific Configuration 見出しの右側にある「i」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示してください。</p> <p>詳細な情報が必要な場合は、設定するデバイスの資料を参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>



(注) BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、P.3-4 の「新しい BAT 電話機テンプレートの作成」に進みます。

BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

表 3-2 では、BAT 電話機テンプレート、ゲートウェイ テンプレート、UDP テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

関連する手順については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Directory Number Information (電話番号情報)	
Line Template Name	回線テンプレートの一意の名前を入力します。
Route Partition	電話番号が属するルート パーティションを選択します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Description	回線テンプレートの説明を入力します。
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には Display フィールドに入力された名前が使用されます。
Alerting Name ASCII	このフィールドには、Alerting Name フィールドと同じ情報が表示されますが、入力を ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしないデバイスでは、Alerting Name ASCII フィールドの内容が表示されます。
Active	このチェックボックスを Directory Number Configuration ウィンドウで表示するには、Route Plan Report ウィンドウから未割り当ての電話番号にアクセスします。このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。チェックボックスがオフの場合、DN は Cisco CallManager で無視されます。
Directory Number Settings (電話番号の設定)	
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメール サーバが設定されていない場合に役立ちます。
Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。  (注) このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示される Pickup Group Names が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Presence Group	プレゼンス機能で使用すると、電話番号がプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャーが電話番号のステータスを要求すると、電話番号のステータスがリアルタイムにデバイスに表示されます。 電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、ウォッチャーのプレゼンス グループが、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを、Presence Group Configuration ウィンドウに示されるとおりに表示するよう許可されていることを確認します。 プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
User Hold Audio Source	ユーザが HOLD ボタンを押してコールを保留にするとときに再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするととき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコールパークを開始する間) に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Call Forward and Pickup Settings (Call Forward と Call Pickup の設定)	
Forward All Voice Mail	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward All Destination フィールドと Forward All Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward All Calling Search Space	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Secondary Calling Search Space for Forward All	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>Call Forward All のセカンダリ コーリングサーチを追加すると、転送のためのソリューションとなります。Call Forward All のプライマリ コーリングサーチスペースと、Call Forward All のセカンダリコーリングサーチスペースは、Call Forward All を処理するときに連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco CallManager は、この組み合わせを使用して、CFA の宛先を検証し、コールを転送します。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Voice Mail	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Externally Destination フィールドと External Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメールプロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward on CTI Failure Voice Mail	<p>Forward on CTI Failure フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートだけに適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外線コールの転送をどのように扱うかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager では、Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定が無視されます。内線コールでこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの Voice Mail チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイス メッセージ システムに転送しない場合、外線コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward on CTI Failure Destination	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。</p> <p>内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward on CTI Failure Calling Search Space	<p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p>内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの Calling Search Space に別の設定値を選択する必要があります。</p>
No Answer Ring Duration	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。</p>
Call Pickup Group	<p>Pickup Group Name を選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。</p>
Multilevel Precedence and Preemption Alternate Party Settings (マルチレベル優先順位およびプリエンプション代替パーティ設定)	
Target (Destination)	<p>この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。</p> <p>値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。</p>
MLPP Calling Search Space	<p>ドロップダウンリストボックスから、代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。</p>
MLPP No Answer Ring Duration (Seconds)	<p>優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。</p> <p>Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Line Settings for This Phone (この電話機に対する回線設定値)	
Display (Internal Caller ID)	<p>このフィールドは、回線の着信表示に電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。</p>
Line Text Label	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
External Phone Number Mask	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム ポリシーを使用 (電話番号は「Message Waiting Lamp Policy」設定を参照します) Light and Prompt Prompt Only Light Only None <p>設定は、右にあるチェックボックス (Update Shared Device Settings) をオンにして Propagate selected ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
Ring Setting (Phone Idle)	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、ライン アピアランスに対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Use system default Disable Flash only Ring once Ring

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Ring Setting (Phone Active)	<p>この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Use system default • Disable • Flash only • Ring once • Ring • Beep only
Multiple Call/Call Waiting Settings (複数コール/コール ウェイティングの設定)	
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの1つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
Forwarded Call Information Display for this Device (デバイスの転送コール情報の表示)	
Caller Name	<p>転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</p>
Caller Number	<p>転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Redirected Number	<p>転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p>
Dialed Number	<p>転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。</p>



(注) 電話機と UDP の手順を完了するには、[P.3-5](#) の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」に進みます。ゲートウェイに関するアップデートを完了するには、[第43章「ゲートウェイテンプレート」](#)を参照してください。



(注) Associated Devices リスト ボックスでデバイス名を選択し、**Edit Device** または **Edit Line Appearance** をクリックして、デバイスまたは回線を編集することができます。

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

新しい電話機または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加する場合、BAT と共に使用するよう設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。このスプレッドシートは、選択されたデバイスのオプションを自動的に調整するマクロを備えています。スプレッドシート内でファイル形式を定義することができるので、BAT スプレッドシートはデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。

新しい電話機と他の IP テレフォニー デバイスを追加するために BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストールおよび使用方法の詳細については、[P.1-9](#) の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** 電話機オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある **Phones** タブをクリックします。
- ステップ 4** 次のデバイス タイプのいずれかのオプション ボタンを選択します。
 - Phones
 - CTI Port
 - H.323 Client
 - VGC Phones
 - VGC Virtual Phone

スプレッドシートには、選択されたデバイスで使用可能なオプションが表示されます。たとえば、Phones を選択すると、回線数と短縮ダイヤル数のフィールドが表示されます。



(注) 選択するデバイス タイプによって BAT スプレッドシート内のデータの検査基準が決まります。

ステップ 5 電話機ごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、**Create File Format** をクリックします。Field Selection ポップアップ ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 デバイス フィールドを選択するには、Device Field ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Device Fields ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、MAC Address/Device Name、および Description を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。

**ヒント**

リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

ステップ 7 Line Field ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Line Fields ボックスに移動します。

**ヒント**

Selected Line Fields ボックスと Selected Device Fields ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

ステップ 8 **Create** をクリックして、CSV データ ファイル形式を修正します。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

ステップ 9 **OK** をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

ステップ 10 Number of Phone Lines ボックスが表示されるまで、右にスクロールします。ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定した回線数を超えることはできません。

**(注)**

CSV データ ファイルを挿入するとき、電話機の回線数は BAT 電話機テンプレートの回線数を超えることはできません。この数を超えると、エラーが発生します。

ステップ 11 電話機の Number of Speed Dials ボックスで短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。

**(注)**

データ レコードを挿入するときは、BAT テンプレートで設定した短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。超えた場合は、CSV データ ファイルと BAT 電話機テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

ステップ 12 スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを示しています。表 3-3 では、BAT スプレッドシートのすべての電話機フィールドを説明しています。

ステップ 13 電話機ごとに MAC アドレスを入力しなかった場合は、**Create Dummy MAC Address** チェックボックスをオンにします。

ダミー MAC アドレス オプションを選択した場合、後で、正しい MAC アドレスを使用して電話機を更新できます。この更新を行うには、Cisco CallManager Administration にこの情報を手作業で入力するか、TAPS ツールを使用します。TAPS の詳細については、P.52-2 の「TAPS の概要」を参照してください。



(注) CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。H.323 クライアント、VGC Phone、および VGC Virtual Phone には、ダミー MAC アドレスを使用しないでください。

ステップ 14 **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、指定したローカル ワークステーション上で選択したフォルダに、次のファイル名で保存されます。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。



(注) カンマ区切りの CSV ファイル名 (abcd,e.txt) は、Cisco CallManager サーバにアップロードできません。

CSV データ ファイルを Cisco CallManager の最初のノードのデータベース サーバにアップロードして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。ファイルのアップロードとダウンロードの詳細については、第2章「ファイルのアップロードとダウンロード」を参照してください。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の Insert Phones ウィンドウで **View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

その他の項目

詳細については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明

表 3-3 では、CSV データ ファイルにデバイスと回線の詳細を追加する場合に使用可能な電話機フィールドについて説明します。関連する手順については、P.3-47 の「関連項目」を参照してください。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明

フィールド	説明
Device Fields (デバイス フィールド)	
MAC Address/Device Name	電話機、VGC Virtual Phone、VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの固有の ID (デバイス名) を入力します。 Create Dummy MAC Addresses チェックボックスをオンにすると、固有のデバイス ID を自動的に生成できます。
Description	電話機またはデバイスを特定する説明、たとえば「Conference Room A」や「John Smith」を入力します。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
User Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留 オーディオ ソースを入力します。 ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
Network Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオ ソースを入力します。 ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするととき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコールパークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。
User Locale	このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Network Locale	このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを入力します。 Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するとき使用するトーンと断続周期を提供します。
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
Common Phone Profile	ドロップダウン リスト ボックスで、利用可能な共通の電話機 プロファイルのリストから、共通の電話機 プロファイルを選択します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Presence Group	<p>プレゼンス機能で使用すると、SIP 電話機または SCCP 電話機は、BLF 短縮ダイヤル ボタンとして電話機に設定されたプレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話番号) を要求するので、ウォッチャーとして機能します。</p> <p>電話機によってプレゼンス エンティティのステータスを受信するには、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスを Presence Group Configuration ウィンドウに示されるとおり表示するよう許可されているプレゼンス グループを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p></p> <p>(注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。</p> <p>値は CTI ポートには適用されません。</p>
Security Profile	<p>デバイスに適用するセキュリティ プロファイルを入力します。選択したプロファイルが電話機がサポートしていない場合は、Cisco CallManager で設定が適用できません。</p> <p>すべての電話で、セキュリティ プロファイルを適用する必要があります。電話機がセキュリティをサポートしていない場合は、ノンセキュアなプロファイルを選択します。</p>
SUBSCRIBE Calling Search Space	<p>プレゼンス機能で使用すると、電話機からの登録要求を Cisco CallManager がルーティングする方法は、SUBSCRIBE コーリング サーチ スペースによって決まります。ドロップダウン リストボックスから、この目的に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p></p> <p>ヒント プレゼンス機能の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p></p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p></p> <p>(注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	このリストは、優先順位が付けられたメディア リソース グループのグルーピングを指定します。アプリケーションは、Music On など、必要なメディア リソースを選択します。 Media Resource List に定義されている優先順位に従って、利用可能なメディア リソース間からサーバを保留します。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを入力します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
MLPP Domain	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
MLPP Indication	(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Default: デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • Off: デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • On: デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。
MLPP Preemption	(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • Default: デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • Off: デバイスは MLPP 優先コールの表示の対応も処理もしません。 • On: デバイスは MLPP 優先コールの表示に対応して処理します。
Packet Capture Mode	信号パケット キャプチャに設定するモードを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • None: モードを指定しない場合は None を選択します。 • Real-Time Mode: リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。 • Batch Processing Mode: 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。
Packet Capture Duration	パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。
Authentication String	4 ~ 10 桁の数値を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話機のユーザまたは管理者が認証文字列を電話機に入力する必要があります。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Ignore Presentation Indicator	Yes または No を入力して、コール表示の制限をコールごとに設定します。このチェックボックスをオンにすると、Cisco CallManager では、内線コールのために受信したすべての表示が無視されます。
SIP Profile	デフォルトの SIP プロファイルまたはすでに作成した特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルは、デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードのタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、Iris、および動的 DNS サーバアドレスなど、電話機の特定の SIP 情報を提供します。
Digest User	ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。 選択したダイジェスト資格情報が、End User Configuration ウィンドウで指定されたとおりに設定されていることを確認します。 電話機の設定を保存し電話機をリセットした後、ユーザのダイジェスト資格情報が、電話機の設定ファイルに追加されます。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』を参照してください。
Log Out Profile	エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを入力します。Cisco CallManager Administration でログアウトプロファイルを設定する必要があります。 Use Current Device Settings : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。 Select a User Device Profile : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。 選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがないとき、デバイスにロードされます。
SIPCodec_MTPPPreferredOrigCo dec	SIP コールにメディア ターミネーションポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。
Dial Rules	必要に応じて、適切な SIP ダイアル ルールを入力します。SIP ダイアルルールは、ユーザがキーを押したりタイマーを待ったりしなくてもコールが処理されるための、Cisco SIP IP Phone モデル 7905、7912、7940、および 7960 のローカル ダイアル プランを提供します。 ダイアルルールを SIP IP Phone に適用しない場合は、SIP Dial Rules フィールドを <None> のままにします。この場合、コールを処理するには、ユーザが Dial ソフトキーを使用するか、タイマーが期限切れになるのを待つ必要があります。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space Reroute	<p>再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>参照側の再ルーティング用コーリング サーチ スペースが、参照側からターゲットへのルート検索に使用されます。再ルーティング用コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗した場合、参照プリミティブは、要求を拒否して「405 Method Not Allowed」というメッセージを返します。</p> <p>リダイレクション (3xx) プリミティブおよび転送機能も、再ルーティング用コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクトからまたは転送からターゲットへのルートを検索します。</p>
Calling Search Space Refer	<p>アウトオブダイアログ参照コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、アウトオブダイアログ (OOD) 参照許可コーリング サーチ スペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ参照を許可します。管理者は、参照側の OOD CSS を設定することによって、アウトオブダイアログの使用を制限します。参照プリミティブでは、OOD 参照要求が拒否され、「403 Forbidden」というメッセージが返されます。</p>
Certificate Operation	<p>次のオプションから実行する認証操作を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • No Pending Operation : このデバイスには処理中の証明書のオペレーションリストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。 • Install/Upgrade : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。 • Delete : 証明書のオペレーションを削除します。 • Troubleshoot : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。
Certificate Operation Completion Time	<p>このフィールドでは、Install/Upgrade、Delete、および Troubleshoot Certificate Operation オプションがサポートされており、操作を完了する必要がある日付と時刻を指定します。</p>
Secure Shell User	<p>セキュリティ保護されたシェルのユーザのユーザ ID を入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) は、トラブルシューティングのためにセキュリティ保護されたシェルを使用します。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>
Secure Shell Password	<p>セキュリティで保護されたシェルのユーザのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュリティ保護されたシェルへのアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。詳細については、TAC にお問い合わせください。</p>
Device Pool	<p>適切なデバイス プールを入力します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティの集合 (たとえば、CallManager グループ、日付/時刻グループ、地域、およびデバイスの自動登録用のコーリング サーチ スペース) を指定します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Built-in Bridge	On、Off、または Default を入力して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします。 設定の詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。
Calling Search Space	適切なコーリングサーチスペースを入力します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールが行われる番号を検索するパーティションの集合から構成されています。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。コーリングサーチスペースに関する設定情報については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Location	この電話機に対して、適切な場所を選択します。ロケーションを Hub_None に設定すると、ロケーション機能がこの電話機の消費する帯域幅を管理しないことを示します。
Module 1	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 1 Load Name	適切な拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Module 2	適切な拡張モジュールまたは None を入力します。
Module 2 Load Name	2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します (該当する場合)。 ここで入力する値は、現在のモデルのデフォルト値を上書きします。ファームウェア ロードがモジュール ロードに一致することを確認します。
Phone Template	このタイプのバルク トランザクション用に作成した電話機テンプレートを入力します。
Authentication Server	電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする CiscoIP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。 デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された CiscoIP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。
Proxy Server	電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。 電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいるので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Idle	Idle Timer フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。 たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。
Idle Timer	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は Idle フィールドに指定された URL を表示します。
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Line Fields (Optional) (回線フィールド (オプション))	
Directory Number	電話機の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Route Partition	電話番号が属するルート パーティションを入力します。  (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Display	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。  (注) このフィールドをブランクにしておくと、Directory Number フィールドに入力された値が使用されます。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Line Text Label	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。  (注) デフォルトの言語は英語です。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。  (注) このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示される Pickup Group Names が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Line User Hold Audio Source	<p>ユーザが Hold ボタンを押してコールを保留にするときに再生される保留オーディオ ソースの音楽を入力します。</p>
Line Network Hold Audio Source	<p>システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき) に再生される保留オーディオ ソースの音楽を入力します。</p>
Forward All CSS	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Secondary Calling Search Space for Forward All	<p>ドロップダウン リスト ボックスからセカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。</p> <p>コール転送は回線ごとの機能なので、デバイスのコーリングサーチスペースが不明な場合は、回線のコーリングサーチスペースを使用してコールが転送されます。回線のコーリングサーチスペースが制限的またはルーティング不能な場合、転送の試行が失敗します。</p> <p>Call Forward All のセカンダリ コーリングサーチを追加すると、転送のためのソリューションとなります。Call Forward All のプライマリ コーリングサーチスペースと、Call Forward All のセカンダリ コーリングサーチスペースは、Call Forward All を処理するときに連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Cisco CallManager は、この組み合わせを使用して、CFA の宛先を検証し、コールを転送します。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Destination External	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Destination Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward No Answer External	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Destination External	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Destination Internal	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage External CSS	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal CSS	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Destination External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Destination Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward on Failure External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward on Failure Destination External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p>
Forward on CTI Failure Destination	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが転送される電話番号を指定します。外部の電話番号を含め、ダイヤル可能な任意の電話番号を使用します。</p> <p>内線コールの宛先の値を入力すると、外線コールの Destination フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の宛先に転送する場合は、外線コールの Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward on CTI Failure Calling Search Space	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの Calling Search Space 設定にこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに転送する場合は、外線コールの Calling Search Space に別の設定値を選択する必要があります。
Call Pickup Group	Pickup Group Name を選択してコールピックアップグループを指定します。コールピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
External Phone Number Mask	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用には送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。
No Answer Ring Duration (CFNA)	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space (MLPP)	代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを入力します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。 Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
Maximum Number of Calls	クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。 デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。 CTI ルートポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Busy Trigger	この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。 このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には Display フィールドに入力された名前が使用されます。
Route Filter	Route Filter Name フィールドに名前を入力します。名前は、最大 50 文字の英数字と、空白、ピリオド (.)、ハイフン (-)、およびアンダースコア (_) の各文字を自由に組み合わせることができます。各フィルタ名がルート プランで一意であることを確認します。  (注) ルート フィルタには、短くてわかりやすい名前を使用します。CompanynameLocationCalltype という形式を使用すれば、通常、十分に詳細でありながら、ルート フィルタをすばやく容易に識別する短い名前が作成できます。たとえば、CiscoDallasMetro という名前は、着信無料のローカル間アクセスであり、シスコのダラス オフィスからのトランスポート領域 (LATA) コールのルート フィルタを示します。
Dial Plan	たとえば、北米番号計画などのダイヤル プランを入力します。
User Hold MOH Audio Source	ユーザが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオ ソースを入力します。
Line Network Hold MOH Audio Source	ネットワークが電話を保留にしたときの保留音 (MOH) のために使用するオーディオ ソースを入力します。
E.164	ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。  (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。  (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。



(注) 手順を完了するには、P.3-32 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」に進みます。

関連項目

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [BAT 電話機 テンプレートの使用方法 \(P.3-3\)](#)
- [新しい BAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
- [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-7\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの変更 \(P.3-9\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-10\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 \(P.3-32\)](#)
- [BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明 \(P.3-35\)](#)

